

授業改善への道筋

教材研究こそが授業の命

読みの力をつけさせるためには、授業を改善しなければなりません。授業改善のポイントは、教材研究につきまします。読むためのキーワードを絞り込みます。1時間の授業でやるべきことを絞り込みます。そのために、教材の本質に迫る深い教材研究をいかに行うかです。

近年、教育界を中心として、学力低下論が大きな問題として取り上げられています。そのことを、国語科で考えてみると、読解力の低下ということになります。このような状況の中で、国語教師はどんなことをすべきなのでしょう。それは、授業力の向上です。教師の授業力の向上が、緊急の課題であると考えます。

ここ数年、国語科では、読解力の育成が重視され、それに伴い教科書の構成や内容も変わってきています。そこで、教材の本質に迫る教材研究が、今まで以上に重要になってきます。言葉にこだわり、教材の本質を追究する教材研究と、その絞り込んだ成果を子どもたちに伝えていく授業研究こそが授業力を高めるポイントであると考えます。国語教師として、絞り込み、概念を砕く深い教材研究こそが授業の命であることを常に心にとどめておくべきです。

授業を改善するということ

「読むこと」の領域に絞り、自分の授業を改善することをねらって、実際に授業研究を積み上げていった道のりについて報告します。

〈授業研究のテーマ〉

実感を伴って文章を読み取らせるためにどうするか。それは、着目させたいキーワードを見つけることである。

〈授業改善のポイント1〉

深い教材研究に裏打ちされたキーワードの絞り込み。キーワードは絞りに絞って。概念砕きができていない。だからキーワードが絞り込めない。

「大人になれなかった弟たちに・・・」の授業では、初めて泣いた母の思いを読み取らせるために、「大きくなっていったんだね」を取り上げました。しかし、自分の中で概念砕きが全くできていませんでした。文学には、本当に核となる言葉があり、そこから主題が明確になります。ところが、教材研究で絞り込めていませんでした。その結果、授業の中では生徒から次のような優等生的な反応しか出てきませんでした。

- この満足できない時代に、よくがんばって大きくなったね。
- 食べ物も十分に与えていなかったけれど、こんなにおおきくなったんだと、悲しみがぐっとこみ上げてきた。
- 今までずっと一緒だったけれど、初めて大きくなっていくことに気づき、こんなつらい生活のなかで一生懸命生きてくれたヒロユキにありがとうという気持ち。
- この子は、ちゃんと生きていて、また生きようとしていたのだ。そのことに改めて気がついた。

これらは、頭で言っている、わかっていることを平気で言っている、頭で理性で言えるレベルです。授業を通して明らかになったことは、次のことです。

- ◇ 材料を取り上げすぎており、教材研究で絞り込めていない。
 - 「おおきくなっていったんだね」の「ね」を取り上げ教材化する。
- ◇ 生徒にハッと気づかせるような授業になっていない。
 - 文章を読まなければならない。自分の印象以上のことがなければ、国語の授業はおもしろくない。